

「時間軸」と「空間軸」

今年も残り少なくなってきた。11月下旬から2週間、目の手術で入院したことで、時間の流れがいつもよりも速い。やっとペースが戻ってきて、今年1年を振り返ろうという気分になってきた。

今年には戦後70年であるが、その「戦後」が問われた年であった。安保関連法が9月19日未明に強行成立した。日本という国が「戦争する国」へと突き進むことが、法的に方向づけられた。誕生日の17日あたりが、参議院での攻防のヤマ場であり、どうも落ち着かなかった。

わが人生は戦後3年で「生」をうけ、戦後の混乱から復興、高度成長の時代へと歩んできたことを考える年でもあった。私より若い元同僚が相次いで亡くなる中で、10歳まで生きられるかと言われた私が、よくぞここまで生きられたことを実感し、感謝することも多かった。

今年の記憶に残る仕事の一つに、西三河をエリアとする「キャッチネットワーク」の戦後70年記念の特別番組に「キャッチ」されたことだ。お盆の3日間、ケーブルTVで放映された「戦後70年 未来へ生きる私たちへ」という番組「コメンテーター」を務めた。放送現場で元気に働き、活躍する卒業生からの「依頼」によるものだ。

番組制作のために、戦争から戦後の西三河の歴史を図書館や公文書館であらためて調べた。その「成果」をほんの少しだけ、番組にも活かすことができた。

写真にあるように、番組コメントで「時間軸」と「地域軸」（当初は「空間軸」と言っていたが、分かりにくいということで「地域軸」に変更）という二つの軸から見ると、問題が見えてくると述べた。これが視聴者から好評であったようで、それを聞いて嬉しかった。

この番組収録の「キンチョウの夏」のあと、10月に東京で地方議員研修会があり、議員さんの前で番組を紹介し、「時間軸」と「地域軸」から、戦後日本の地方自治と地方財政の講義をした。講義にメリハリをつけることができた。

この特別番組が年末12月31日夜9時半から再放送されることになった。地上デジタル12チャンネルである。「紅白」の裏番組？だ。戦後70年を終えるにふさわしい。せっかくなので多くの人に見てもらいたい。とりわけ西三河の人に「再放送」を伝えたいので、もう一度レポートした。



(2015年12月22日)